



ホームページ URL
<http://blog.citynii-gata.ed.jp/kuzusho/toyosaka/>



体験活動の大切さ

校長 長谷川 智

10月15日、2年ぶりの福島潟アドベンチャーを行いました。新型コロナの感染状況によっては開催断念の可能性もありましたが、市内の状況が落ち着いてきたので、感染対策を十分にしながら実施しました。

開会식을短時間で行い、ボランティアの皆さんに「お願いします」のあいさつをして、秋空の中を2コースに分散して出発しました。しばらく休止していた縦割り清掃を10月に入ってから復活し、縦割り班での準備ができたので、6年生の班長を先頭に福島潟を目指しました。福島潟でお弁当を食べた後は、密になる遊びはしないで、6年生が考えたクイズなどをしながら散策をしました。帰りは、6年生が低学年のお世話をして、5年生がその手助けをして、みんなが一生懸命に一步一步最後まで歩いたので全員がゴールできました。閉会式はせず、班ごとに今日の頑張りをたたえ合ったり、5・6年生に感謝したりして教室に向かいました。



ほとんどの班がゴールしてしばらくしたとき、少し遅れてがんばってゴールに向かう友達を見つけた3年生が、みんなでグラウンドに出て道路に向かって、「がんばれ〜！」と応援してくれました。疲れてゆっくり歩いていたその子が見て急に走り出しました。そして、校門の前で待つみんなの輪の中に飛び込んで行きました。「やった〜！」「がんばったね！」という歓声が上がりました。まるで映画のワンシーンを見ているようでした。

そして、後日「ありがとう」「がんばったね」とメッセージを交換しました。そういう葛塚小学校のみなさんの「ささえあい」の姿が見られ、さらに、30名を超えるたくさんのボランティアの皆さんが見守ってくださって、「ちいきあい」も高まりました。

コロナ禍の中で、止まっていた時が再び動き出したような気がしました。教室の中でのバーチャルな体験でなく、本物の体験にどれだけ大きな役割があるのか、改めて実感しました。保護者の皆様、当日までのご準備ありがとうございました。

ホームページの【校長ブログ】が100号を超えました。お時間がありましたら、ぜひ、こちらもお覧ください。

児童アンケート・保護者アンケートの結果の考察

<学力の向上>

児童	1	2	3	4
	否定的回答		肯定的回答	
算数の授業で、学習課題を進んで解決しようとし、どうやったら学習課題が解けるかを考えることができた。	8人	17人	161人	339人
	5%		95%	
授業中に友達の考えを聞いて、「なるほど」と思うことがあった。また、その考えや理由を取り入れることがあった。	4人	14人	120人	387人
	3%		97%	
学年×10分の家庭学習を、平日、毎日やっている。	8人	25人	150人	342人
	6%		94%	
自主学習で学校の授業の振り返りをしたことで、勉強がよく分かったり、よくできたりするようになったと思う。	10人	23人	154人	338人
	6%		94%	

保護者	1	2	3	4
	否定的回答		肯定的回答	
子どもは、学年×10分の家庭学習を、平日、特別な日を除き、毎日やっている。	5人	32人	102人	188人
	14%		86%	
子どもは、授業の振り返りや再現ノート、復習を進んで行っている。	18人	68人	112人	129人
	26%		74%	

- 1 まったくあてはまらない 2 あまりあてはまらない
3 まあまああてはまる 4 とてもよくあてはまる

※1・2学年については、「授業の振り返りや再現ノート、復習を進んで行っている。」の言葉を、「はきはきと音読したり、宿題を行ったりしている。」に代えてアンケートを行っています。



2年1組 算数 研究授業

上記のアンケート結果を分析すると、児童の多く（90%以上）は、授業中、意欲的に学習に取り組み、進んで学習課題に取り組んでいる様子が伺えました。また、友達との対話を通して学び合っている様子も伺えます。これは教育目標である、「たかめあい」が達成されている姿と言えます。

家庭学習では、例年、児童と保護者の皆さんで多少の相違が見られますが、90%近い児童に家庭学習の習慣が付いている様子が伺えました。「子どもは、授業の振り返りや再現ノート、復習を進んで行っている。」は児童アンケートでは94%、保護者アンケートでは74%と20%の違いがあります。これは、「進んで」のところがまだ達成できていないからだと推察しました。しかし、年々、保護者アンケートの評価が上がってきている様子から、進んで学ぶ児童の割合が増えてきていることが分かります。

今後も、話し合い・対話を通して互いに高め合う授業を行い、児童に学ぶ楽しさを感じさせ、確かな学力を身に付けさせたいと思っております。また、昨年度から導入されたタブレットを活用することによって、より一層、効果が上がることを期待しております。

今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

(研究主任：塚本 剛)

<心の教育>

児童	否定的回答	肯定的回答	保護者	否定的回答	肯定的回答
進んであいさつをしている	9%	91%	学校を楽しんでいる	7%	93%
めあてに向かって助け合うことができる	6%	94%	思いやりと親切な気持ちをもって行動している	5%	95%
自分にはよいところがある	9%	91%	進んで挨拶をしている	20%	80%
学校で決められたきまりを守っている	6%	94%	家庭や地域の中できまりやマナーを守って生活している	8%	92%
いじめについて心配や不安がなく、安心して楽しく生活している	7%	93%	学校は普段からいじめの防止に努めている	6%	94%

<心の教育>に関するアンケートでは、児童・保護者ともに高い評価になりました。これらの成果は、各学級で実施している学級の話合いにより、きまりを守ろうとする意識を高めたり、児童同士のよいところを認め合ったりした結果ではないかと考えています。

また、昨年度まで肯定的回答が70%台だった「進んで挨拶をしている」が、今年度80%に到達しました。年間を通して挨拶を生活目標にしていることや、生活委員会の挨拶運動などが肯定的な回答の増加の要因だと考えます。

コロナ禍で「大きな声であいさつをする」ことは難しい現状ですが、「聞こえる声で」、「目を合わせる」、「おじぎをする」など、これまでとは違うあいさつの仕方についても今後さらに指導し、さらなる評価の向上に向けて取り組んでいきます。よい挨拶の姿がこれからも見られるよう、ご家庭でも声掛けをお願いいたします。

(生活指導主任 松本 和大)

<健康・体力>

児童	否定的回答	肯定的回答	保護者	否定的回答	肯定的回答
体育の授業で自分の目標に向かって、たくさん練習している	4%	96%	子どもは、帰宅した後、運動したり体を動かす遊ばせたりしている	37%	63%
バランスよく「黄・赤・緑」の食品を食べている	11%	89%	好き嫌なく(1・2年)バランスよく(3~6年)食べている	28%	72%
自分の決めた寝る時間を守っている	19%	81%	子どもが決めた就寝時間には寝かせている	23%	77%

「体育の授業」に関する児童アンケートでは、肯定的評価が90%以上でした。全校児童に向けて「器械運動(マット・鉄棒)」「水泳(今年度は未実施)」「なわとび」の全校統一カードを使用し、一人一人がめあてをもって意欲的に体育授業に取り組めるようにしていること、各担任が「運動量を確保した授業」を心掛けて指導した結果がよい姿につながったと考えられます。「帰宅後の運動」に関する保護者アンケートでは、70%に達しませんでした。帰宅後に運動をする子どもたちが多くないことが考えられ、学校や家庭での呼び掛けなどを行う必要があります。また、学校では運動遊びの紹介も行っていきたいと思えます。

「食事」に関するアンケートでは、児童と保護者の回答に差が見られました。児童は、バランスよく食べている「つもり」でも、保護者の方々から見ると、バランスよく食べている

とは言い難いのかもかもしれません。今後、栄養教諭が各クラスで食育指導を実施して、食への理解・関心を高めていく予定です。

「睡眠」に関するアンケートでは、児童・保護者ともに肯定的評価が70～80%台でした。毎年行われている生活チェック週間（ぼっちり・にっこり・すっきりカード）での結果を見ても、低い数値となっています。生活チェック週間では、「就寝時刻の目標を見直す」「就寝前メディアの使用を制限する」など、各家庭に合った取組を考えて、よい生活習慣を身に付けてほしいと思います。

今後、2・3回目の生活チェック週間の取組へのご協力をよろしくお願いいたします。
 （健康・体力部 主任 浅見 真理奈）

<特別支援教育>

どの子も分かる授業と集中できる学習環境づくり

どの子も落ち着いて学習に取り組む、どの子も分かる授業を行うために、「葛小UDスタンダード10」（右図）に全校体制で取り組んでいます。

学校評価アンケートでは、①「授業の始まりと終わりの時刻を守る」と肯定的に評価した職員は、95%で、⑥「授業（単元）のゴールを示し、方向付けている」と肯定的に評価した職員も100%でした。全ての職員が授業の始まりと終わりの時刻を意識して授業に取り組んでいます。

授業の開始時刻や終了時刻を守るだけでなく、ゴールを示し、方向付けた授業の展開を、今後も取り組んでいきます。

（特別支援教育部 主任 布施 和法）

①	授業の始まりと終わりの時刻を守る。（ゴールの時刻を守る。）
②	教室前の掲示物は、教育目標、「聞くこと・話すこと」、「プレートのボード」（一日の流れ・1時間の流れ）の3枚とする。
③	学習用具やファイル類の置き場所を決め、片付け方を文字や写真で明示する。（ロッカー・ボックス）
④	提出物の置き場所を明示する。
⑤	休み時間や教室を空ける時、下校時は、椅子を入れさせる。
⑥	授業（単元）のゴールを示し、方向付ける。
⑦	発問や指示は簡潔に言う。長く話さない。
⑧	視覚教材などを活用し、引きつける工夫をする。
⑨	課題が終わった後にやるべきことを用意し、空白の時間をつくらない。
⑩	教師に注目させてから話をする。（体育は教師が手を挙げ、黙って手を挙げたら話をする。）

<図書館より>

葛塚小学校図書館では、「自ら学ぶ意欲と豊かな力を育てる学校図書館」を基本方針に掲げ、学習活動や読書活動を展開するために取り組みを行っています。

まず、読書の習慣化を図るために、各学年おすすめの本を奨励しています。子どもたちに良書を手にとってもらいたいという思いや、本を読み終わった達成感・充実感をたくさん味わって欲しいと考えています。さらに、おすすめの本を読み終えた後の読書体験を広げていくことをねらいとしています。次に「週末うちどく（週末家族読書）の日」を設定し、全校で取り組んでいます。うちどくの日には、「週末うちどくカード」を配付し、自分が読んだ本の読書記録をとります。学校だけでなく、おうちでも本に親しむ時間を作り、テレビやゲームなどのメディアをお休みして家庭での読書タイムをゆったり過ごして欲しいと思います。その他に地域と連携し、読み聞かせボランティア「おはなしたまてばこ」の方々による水曜朝の読み聞かせを行っています。絵本やおはなしを耳から聞くことでたっぷりと想像力を養って欲しいと思います。

また学習活動での情報収集する基本的な知識を身につけるために、図書館利用指導によるオリエンテーションを全クラスに実施しています（4・10月）。4月は、図書館の使い方・基本的マナーを中心に、10月は図鑑・百科事典・年鑑を使って実際に調べる活動を行っています。

最後に、図書館での読書活動を通じて、子どもの頃に出会った本は、生涯の友になります。これから先きと大切な一冊に出会えることを心から願っています。

「子どもたちよ 子ども時代をしっかりと楽しんでください 大人になってから 老人になってから あなたを支えてくれるのは子ども時代の『あなた』です」（石井桃子 2001年7月18日 杉並区立中央図書館開催「石井桃子展」寄稿色紙の言葉より）

（司書 清田朝夏）



<みんなのかけはし 地域と学校のパートナーシップ事業>

～多くの大人に見守られて～

学校の教育活動・課外活動における地域人材の参画と協働

10月15日、2年ぶりに「福島潟アドベンチャー」が行われました。この行事は毎年、児童たちが楽しみにしている特別活動行事です。全校児童が縦割り班で協力して、福島潟を目指して歩きました。福島潟では班で弁当を食べたり、6年生が中心となって班活動を楽しみました。

今年度は実施可能にするため、歩くコースや福島潟での活動を熟慮しました。そして学校から児童と一緒に活動してくださる活動ボランティアや道中のいたるところで見守りをさせていただく交通ボランティアの方々に協力していただきました。

全校児童が事故に遭うことなく福島潟に到着し、無事に学校に戻って来るためには、様々な場所で安全な環境を作ることが必要です。保護者と地域28名のボランティアの皆様のおかげで、無事に終えることができました。ご協力、ありがとうございました。



（地域教育コーディネーター 金桶布志代）